

ジェイムズ・タリー教授 「批判的営為としての政治哲学」

— 新しい公共哲学の構想 —



2016年 10月22日(土)

14:00~16:00

慶應義塾大学・三田キャンパス

北館 3階大会議室

* 参加無料、申込不要。

* 使用言語は英語。

* 北館は三田キャンパス北門を入れて左手の建物です。

* 講演原稿は、当学会ホームページからダウンロードしてお持ちください。

●ジェイムズ・H・タリー

カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州出身。ケンブリッジ大学で博士号取得。マギル大学、トロント大学、ヴィクトリア大学で、哲学、政治学を講じる。ヴィクトリア大学では先住民ガバナンス課程の設立に携わる。現在、ヴィクトリア大学名誉教授。初期近代、現代思想、先住民の思想を縦横に論じつつ、多様性 (diversity) の時代のデモクラシーを構想する。C.B. Macpherson Prize, Killam Prize in the Humanities, David H. Turpin Gold Medalなど受賞多数。本公演では*Public Philosophy in a New Key* (2008) によりつつ、主要な思想家や思想潮流との対話を通じ、「新しい公共哲学」の構想を提示する。

主要著作: *A Discourse on Property* (1989)

・ *An Approach to Political Philosophy* (1993)

・ *Strange Multiplicity* (1997)

・ *Public Philosophy in a New Key* (2008)

●討論者 乙部延剛

京都大学法学研究科博士後期課程・単位取得満期退学。ジョンズ・ホプキンス大学で博士号(政治学)取得。現在、茨城大学人文学部・准教授。現代思想とデモクラシーの接点を探る意欲的な研究を展開する。論文に「ドルーズの「おろかさ」論:『差異と反復』の政治的射程」、「政治理論にとって現実とはなにか—政治的リアリズムをめぐる—」など。